

山田久志氏 (新制十九期) 秋田県民栄誉章受章

県の記念日八月二十九日県正庁で記念式典と県民栄誉章頒彰式が行われ、新制十九期卒の元阪急ブレーブス投手で現役時代二八四勝をあげた山田久志氏が受章した。

なお、秋田県民栄誉章とは、広く県民に敬愛され、社会に明るい希望を与え、秋田の名を高めた人に贈られるもので、昭和六十一年十一月に制定されたものである。

山田氏は受章のあいさつで「今までいろいろな賞を受けたが、こんなに堅苦しい表彰は初めて。でも、こんな立派な章を頂き本当にありがたく思っています。」と感謝したあと、「できれば現役の時にもらいたかった。」と本音をもらした。最後に「監督と言えないがまたユニホームを着ることがあると思うが、その時に再びみなさんの力を借りたい。章に恥じないように生きます。」と結んだ。
式典を終えたあと、幸枝夫

人や佐々木知事らと記念写真を撮ったが、幸枝夫人は「本当にありがたい章で感激しています。あいさつでは本音を言っちゃった。」と笑っていた。

今回の受章は一人山田久志氏の誇りではなく、同窓生一万三千有余名の共通の喜びとして、永く讀えたい。なお同氏は先に、能代市特別功労表彰をうけている。



大学受験に対応した授業体制の充実を図るため、今年度から授業時間を従来の五十分から十五分延長して六十五分に改めるなど学習形態を大巾に変更させた。学習範囲の拡大・内容の深化などをねらいとした

65分授業に

改革

もので、併せて定期考査の実施回数なども改めた。県内では秋田高(六十五分)、大館鳳鳴高(七十分)と同様の授業体制

が導入されており、授業改革は進学校としての特色をより明確化したものといえる。十五分の延長は、資料活用や演習に、より多くの時間をさくことができ、学習内容の充実が図られるし、定期考査の回数を五

回から四回に減らし間隔をおくことで、「一夜漬け」のテスト勉強の姿勢を改めることができた。生徒側からは、大方の意見として「最初は戸惑いもあったが、今は慣れた。」と受け

母校の 今 昨

すら走る生徒や、仲間で談笑しながらテクテク歩くグループなどさまざまで、夜道に生徒の長い列が続いた。月明かりで道が照らされたとはいえ、冷え込みが厳しく、例年になく足のケイレンや腹痛を起こす生徒が多かったが、

児の意気を示した。なお、トップは男子の3時間2分01秒、女子は1時間59分28秒だった。距離は男子四〇・六KM、女子二三・二KMであった。

能代高校の伝統行事・十里強歩が九月十七日午前零時、八六五人の生徒が参加して行なわれた。号砲を

十里強歩

それでも沿道での父兄の温かな声援に励まされ、各関

合図に「ウォー」と喚声を上げながら威勢よくスタート。女子はバスで山本町中央公民館に移動したあと、午前二時に出発した。マラソンレースなみにひた

門ではジュースやアメなどで栄養補給をしながらゴールを目指した。八百十四人が完歩、能高健



とめ、スムーズに順応してきている。